

## 知財人財育成研究分科会セッション

### ◆小説・TVドラマ「下町ロケット」を知財人財育成にどう活用するか?◆

#### 【セッション・テーマ】

本年度、本分科会では「ビジネスモデルとそれを支える知財マネジメントの基本モデル群を学ぶ」をテーマに分科会を開催しております。ビジネスモデルとそれを支える知財マネジメントの基礎である「古典モデル」をどう学んでもらうか、ということは人財育成の入口をつくる意味で非常に重要です。もちろん、その時に、どうすれば、そもそも初心者「ビジネスモデルとそれを支える知財マネジメント」にいかに関心を持ってもらえるか、が大きな課題です。これは、一般企業人や学生への入門編で苦勞をされている方々の大きな悩みでしょう。

では、大ヒット小説（とTVドラマ）である『下町ロケット』を題材にしてはどうでしょうか？ 今時の学生は読書課題を出すと腰を引く者も少なくありませんが、いわば「食わず嫌い」なので、一度読めばこの物語の面白さに魅せられます。社会人にはTVドラマにはまった人が多いので、その点は大丈夫かもしれません…。そこで、分科会例会で2回に渡り、実際に大学・大学院等の講座で同書を活用している実務家教員の方に集まっていただいて、実際の授業について具体的な議論をいたしました。

その集大成として今回のセッションを企画しました。パネリストが各授業においてどのような教授を行っているのか、その具体的な内容や教授法等をそれぞれご紹介すると共に「フィクションを使った知財マネジメントの啓発の可能性と限界」について議論をいたします。特に、本小説で重要な役割を果たす神谷弁護士のモデルになられた鮫島正洋先生をお招きしておりますので、その関連のお話もお伺いできるものとご期待ください。

#### 【パネリスト】（敬称略：五十音順）

新井信昭（弁理士：東京農工大学大学院等の授業で「下町ロケット」を活用）

遠山 勉（弁理士：成蹊大学法学部ゼミの授業で「下町ロケット」を活用予定）

鮫島正洋（弁護士：「下町ロケット」神谷弁護士のモデル）

三品岩男（弁理士：東京理科大学大学院等の授業で「下町ロケット」を活用）

<モデレータ>

妹尾堅一郎（本分科会担当理事、東京大学大学院等の授業で「下町ロケット」を活用）

<総合司会進行> 中村正之（DNPテクノリサーチエキスパート（本分科会幹事長））

#### 【パネリスト・モデレータ略歴】

**新井信昭**（あらい のぶあき）【グリーンアイピー代表取締役、弁理士】

都立高校卒業後、2年間のフリーター生活を経て実兄と大手企業下請けモノづくりを行う。タクシー運転手で貯めた資金で1年間の世界一周放浪。帰国後、秋葉原の免税店でセールス英語を磨く。特許事務所・機械メーカー特許部門勤務を経て特許事務所を設立、現在に至る。知財リスクの研究を行っている。2016年12月に、書籍「見せない、出さない、話さない（仮題）」上梓予定。東京農工大学大学院非常勤講師、ものづくり大学非常勤講師。弁理士、博士（工学）、技術経営修士。

## 知財人財育成研究分科会セッション

### ◆小説・TVドラマ「下町ロケット」を知財人財育成にどう活用するか?◆

**鮫島正洋** (さめじま まさひろ) 【内田・鮫島法律事務所代表、弁護士・弁理士】

東京工業大学金属工学科卒業。藤倉電線(株) (現 株フジクラ) にてエンジニア (電線材料の開発)、92年弁理士登録後、日本アイ・ビー・エム(株)にて知的財産業務を経て、99年弁護士登録。2004年内田・鮫島法律事務所を設立、現在に至る。弁護士業の傍ら、知財戦略、知財マネジメント、知財政策など多方面に向けた発言を行い、その貢献に対して2012年知財功労賞受賞。著書; 「新・特許戦略ハンドブック」(商事法務 2006) [編著]、 「技術法務のススメ」(日本加除出版 2014) [共著]、 「知財戦略のススメ コモディティ化する時代に競争優位を築く」(日経BP 2016) [共著] など。「下町ロケット」に登場する神谷弁護士のモデル。

**遠山 勉** (とおやま つとむ) 【株式会社知財ソリューション代表取締役、弁理士】

中央大学法学部法律学科卒。東京理科大学工学部第2部電気工学科卒。自動車部品メーカー、特許事務所を経て佐藤・遠山特許事務所を設立、秀英国際特許事務所と改名後、合併で秀和特許事務所共同設立。株式会社知財ソリューション設立、現在に至る。秀和特許事務所相談役。成蹊大学法学部非常勤講師。弁理士・特定侵害訴訟代理登録。

**三品岩男** (みしな いわお) 【合同会社知財開発研究所代表社員、弁理士】

東京理科大学理学部物理学学科卒。東京理科大学専門職大学院総合科学技術経営研究科 (MOT 専攻) 修了。中小企業勤務中に弁理士資格取得。村田特許事務所勤務後、三品特許事務所設立。事務所合併により湘洋内外特許事務所設立 (現特許業務法人湘洋内外特許事務所)。同所引退後、現職。神奈川大学工学部情報システム創成学科、東京理科大学工学部機械工学科、及び、東京理科大学大学院工学研究科他非常勤講師、並びに、東京理科大学大学院イノベーション研究科客員教授。

**妹尾堅一郎** (せのお けんいちろう) 【特定非営利活動法人産学連携推進機構理事長】

一橋大学大学院商学研究科 MBA 客員教授、日本知財学会理事 (本分科会担当)

慶應義塾大学経済学部卒業後、富士写真フイルム株式会社勤務を経て、英国国立ランカスター大学経営大学院博士課程満期退学。産業能率大学助教授、慶應義塾大学大学院教授、東京大学先端科学技術研究センター特任教授、九州大学客員教授等を歴任して現職。現在も東京大学や一橋大学で大学院生を指導。CIEC (コンピュータ利用教育学会) 前会長。内閣知的財産戦略本部専門調査会前会長。現在も、研究・イノベーション学会副会長、農水省技術会議議員ほか、多くの省庁委員や大手企業役員を兼務。ビジネスモデルと知財マネジメントに関する研究と教育を続ける。著訳書多数。中でもベストセラーになった『技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか』は題名が流行語にもなった。平成20年度 産業財産権制度関係功労者表彰 経済産業大臣表彰。